

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 12年10月 ～大幅な貿易赤字が続く

経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

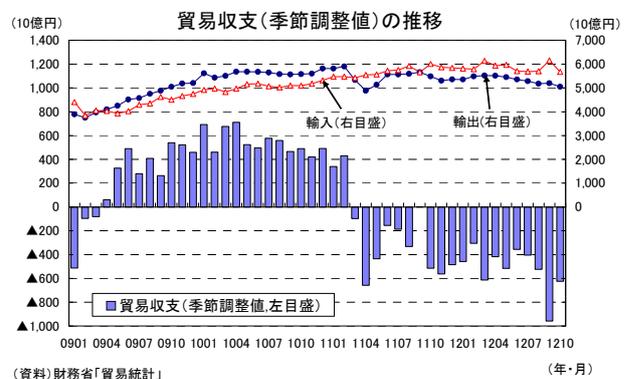
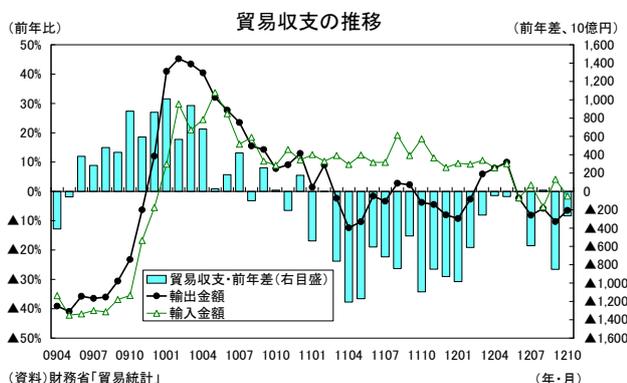
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 大幅な貿易赤字が続く

財務省が11月21日に公表した貿易統計によると、12年10月の貿易収支は▲5,490億円と4ヵ月連続の赤字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲3,520億円、当社予想は▲4,187億円）を下回った。ただし、輸出の減少幅が9月の前年比▲10.3%から同▲6.5%へと縮小し、輸入が前年比▲1.6%（9月：同4.1%）と2ヵ月ぶりに減少したため、前年に比した貿易収支の悪化幅は前月よりも縮小した。

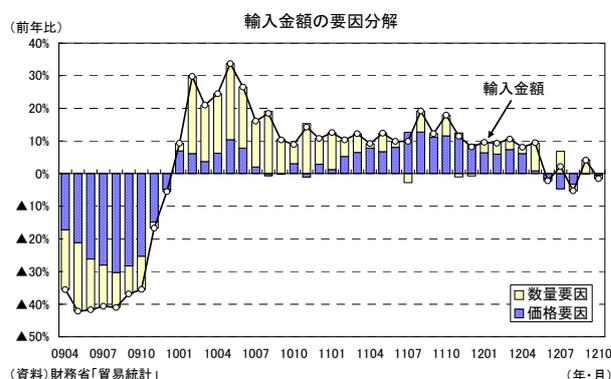
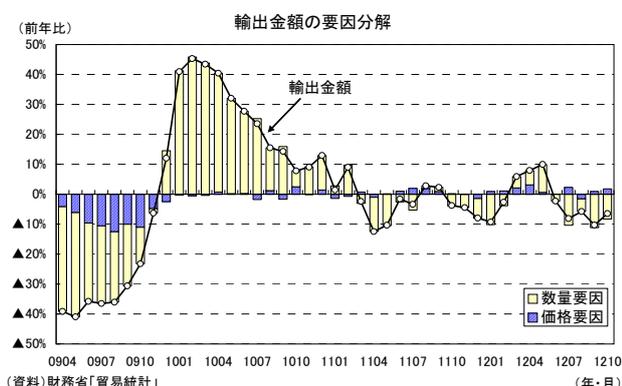
日中関係悪化に伴い大幅な落ち込みが懸念されていた中国向け輸出は前年比▲11.6%となったが、9月の同▲14.1%からは減少幅がむしろ縮小した。不買運動の影響が大きい自動車は前年比▲82.0%と急減したが、全体への影響は限定的であった。現時点では日中関係悪化が輸出全体に大きな影響を与えるまでには至っていない。ただし、中国における不買運動などが中国向け輸出の減少となって表れるまでにはタイムラグがある可能性もあるため、今後の動向を注視する必要がある。

季節調整済の貿易収支は▲6,243億円と13ヵ月連続の赤字となったが、9月の▲9,591億円からは赤字幅が大きく縮小した。輸出、輸入ともに前月比で減少したが、輸入の減少幅（前月比▲7.8%）が輸出の減少幅（同▲2.8%）を上回ったことが貿易赤字の縮小に寄与した。貿易赤字は9月に大きく拡大した後10月には縮小したが、これは環境税導入前の駆け込み需要で原油輸入が9月に大幅に増加し、10月にはその反動で大きく減少したことによるものである。9月、10月を均した赤字幅は8月以前を大きく上回っており、実態として貿易赤字は拡大している。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲8.2%（9月：同▲11.1%）、輸出

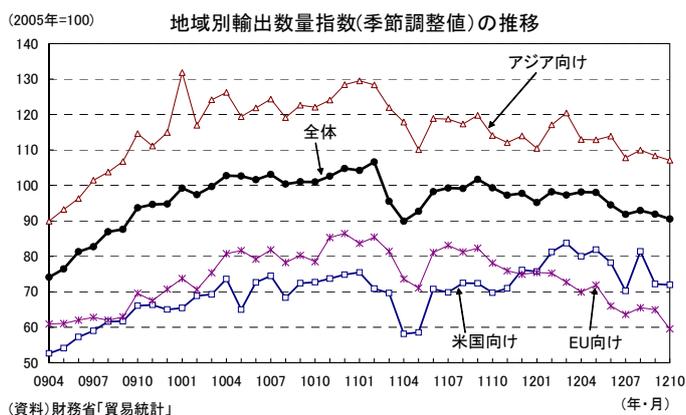
価格が前年比 1.8% (9月:同 0.9%) であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲1.1% (9月:同 4.2%)、輸入価格が前年比▲0.5% (9月:同▲0.1%) であった。



2. 主要3地域向け輸出の減少が続く

10月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 2.8% (9月:同▲0.6%)、EU向けが前年比▲24.4% (9月:同▲20.7%)、アジア向けが前年比▲6.6% (9月:同▲10.0%) となった。季節調整値 (当研究所による試算値) では、米国向けが前月比▲0.3%、EU向けが同▲8.3%、アジア向けが同▲1.2%、全体では同▲1.5%であった。

9月に続き主要3地域向けの輸出が全て前月比で低下したが、景気悪化が続くEU向けは低下幅が大きく拡大する一方、米国向け、アジア向けは低下幅が縮小している。米国経済は一定の底堅さを維持していること、日中関係悪化の影響は懸念されるものの中国経済自体は持ち直しの動きが見られることから、米国向け、アジア向けの輸出は近いうちに下げ止まる可能性もあるだろう。



輸入数量指数 (季節調整値) は前月比▲11.2% (9月:同 9.0%) と大きく落ち込んだが、これは前述したように原油の輸入量が駆け込み需要の反動で急減したためである。輸入数量は、実態としては内需の低迷を反映し緩やかに減少していると判断される。

なお、9月の経常収支は季節調整値で▲1,420億円と現行統計が存在する1996年1月以降では初の赤字となったが、10月の貿易赤字 (季節調整値) が前月から大きく縮小したことにより、10月の経常収支 (季節調整値) は黒字に戻る可能性が高い。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。